



2005年10月14日

大磯町長 三澤龍夫様

社団法人 日本建築家協会  
関東甲信越支部 支部長 松原忠策  
同 保存問題委員会 委員 川上恵  
同 神奈川地域会 代表 幸伏次郎



「旧山口勝蔵別荘」の保存活用に関する要望

拝啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

貴職におかれましては日頃より大磯町のまちづくりに腐心され、又当会の活動へもご支援賜り深く感謝致します。

さて、大磯駅前の白い洋館レストラン「ドゥゼアン」として長い間親しまれた「旧山口勝蔵別荘」に消滅の可能性があると同いました。

大磯町発行の「大磯のすまい」によれば、この建物は山口勝蔵が建てた別荘になっておりますが、閉鎖謄本によれば木下建平の名前が出てきます。明治40年代、貿易商木下がアメリカから呼び寄せた建築家にこの別荘を造らせ、その後大正7年木下家親戚の山口勝蔵の手にわたったものと推察されます。大正2年6月号の「建築画報」に「大磯木下氏別荘」として掲載されている事もこれを裏付けます。

建築当時、木下建平は小さな子供たちのために階段も緩やかに造ったとされています。昭和30年ごろから藤沢市片瀬にある湘南白百合学園の美術講師となった7人兄弟姉妹の四女・木下寿々子は、昭和56年に72歳で没するまでレストラン・ドゥゼアンになってからの旧宅に卒業生や生徒たちと集まるなど、この建物は数少なくなった大磯の別荘建築の中で大磯町民は無論、湘南地域にひろく身近な存在となっていました。

町に存在する建築物は、文化と記憶の集積そのものとも考えられ、建築物がそこにあり続けることで、町の文化的奥行きが深まり、そのアイデンティティーとなる事は言うまでもありません。大正中頃の大磯駅周辺写真を見ますと、この別荘が緑の中に映えその存在の大きさを感じさせます。言わば大磯駅前の三角地にたつランドマーク、なにより大磯のイメージを担う建物であります。

大磯町民を始め各界有志がその保存活動に乗り出し、大磯町も積極的な取り組みをなさっていると伝え聞いております。ここにあって保存活用に関する要望を提出させて頂き、真に価値ある保存活用をお願いする物であります。

なお、日本建築家協会（JIA）関東甲信越支部、同保存問題委員会、並びに神奈川地域会としましても積極的に支援、協力させて頂く所存であることを申し添えます。

敬具